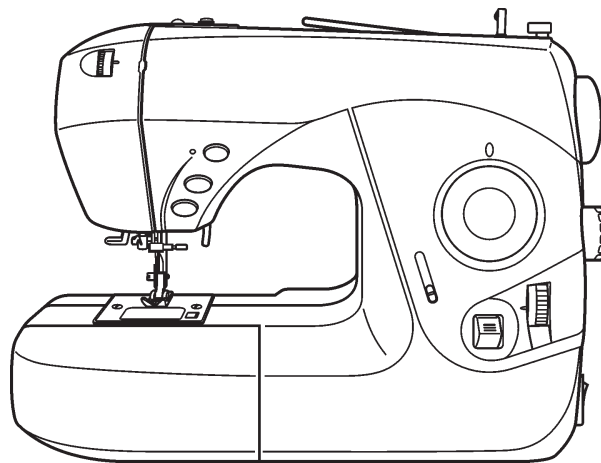


Hitachi Living Systems 使用の手引き



- ★ ご使用前にこの『使用の手引き』を十分お読み下さい。
- ★ この『使用の手引き』は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管して下さい。

HQS-562

..... 安全にご使用いただくために

このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを守って下さい。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY



警 告

感電、火災の恐れがあります

- 1 一般家庭用交流電源100Vでご使用下さい。
- 2 以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いて下さい。
 - ・ミシンのそばを離れるとき
 - ・ミシンを使用したあと
 - ・ミシン使用中に停電したとき



注 意

感電、火災、けがの原因となります

- 1 お客様自身での分解、改造はしないで下さい。
- 2 ミシンの操作時は、かまカバー、 面板などのカバー類を閉じて下さい。
- 3 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリーなどすべての動いている部品に手を近づけないで下さい。
- 4 曲がった針はご使用にならないで下さい。
- 5 縫製中に布を無理に引っばったり、押したりしないで下さい。
- 6 お子様のご使用になるときや、お子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意して下さい。
- 7 以下のことをするときは、電源スイッチを切って下さい。
 - ・ 針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき
 - ・ 下糸をセットするとき
 - ・ 『使用の手引き』に記載のあるミシンのお手入れを行うとき
- 8 ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店、または、サービスセンターにて点検、修理、調整をお受け下さい。
 - ・ 正常に作動しないとき
 - ・ 落下などにより破損したとき
 - ・ 水に濡れたとき
 - ・ 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき
 - ・ 異常な臭い、音がするとき

その他の注意

- 1 最初にミシンを使用するときは、押え金の下に布切れを置いて、糸を使用しないで、ミシンを操作し十分に油気を取り除いて下さい。

も く じ

1 ご使用になる前に

まず各部の名前と働きを覚えましょう	2 ~ 4
電源をつなぎましょう	5
補助テーブルを取りはずしましょう	6
下糸をセットしましょう	
ボビンに糸を巻きます	7
ボビンをセットしましょう	8
上糸をかけましょう	9
自動糸通し器の使いかた	10
下糸を引き上げましょう	11
押えの取りかえかた	12
筒状になった部分を縫うには	13

2 さあ縫ってみましょう

ミシンのセットのしかた	14
直線縫い	15 ~ 20
返しぬい、ファスナーつけ、パイピング	17
縫いにくい布地の縫いかた	
薄物・厚物・段縫い	18
糸調子のとりかた	19
針と糸と布地	20
針を取りかえるには	20
ジグザグ縫い	21
縁かがり、サテンステッチ(密着縫い)	21
シエル縫い	22

点線ジグザグ縫い

裁ち目かがり、つくろい縫い	22
かくし縫い(ブラインドステッチ)	23
直線伸縮縫い、ジグザグ伸縮縫い、オーバーロック縫い	24
オーバーエッジ縫い、スモッキング縫い	25
ボタンホール(ボタン穴かがり)	26 ~ 27

3 ミシンのお手入れ

送り歯の掃除、かまの掃除	28
電球の取りかえ	29

4 ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう

----- 30 ~ 31

5 フットコントローラーの使いかた

----- 32

6 保証とアフターサービス

----- 33

ミシンの仕様

本 体 寸 法 : 巾38.9×奥行21.3×高さ28.4 (cm)
 本 体 重 量 : 7.5 kg
 定 格 電 圧 : AC100V
 定格消費電力 : 70W (モーター55W ライト15W)
 定格周波数 : 50/60Hz

1

2

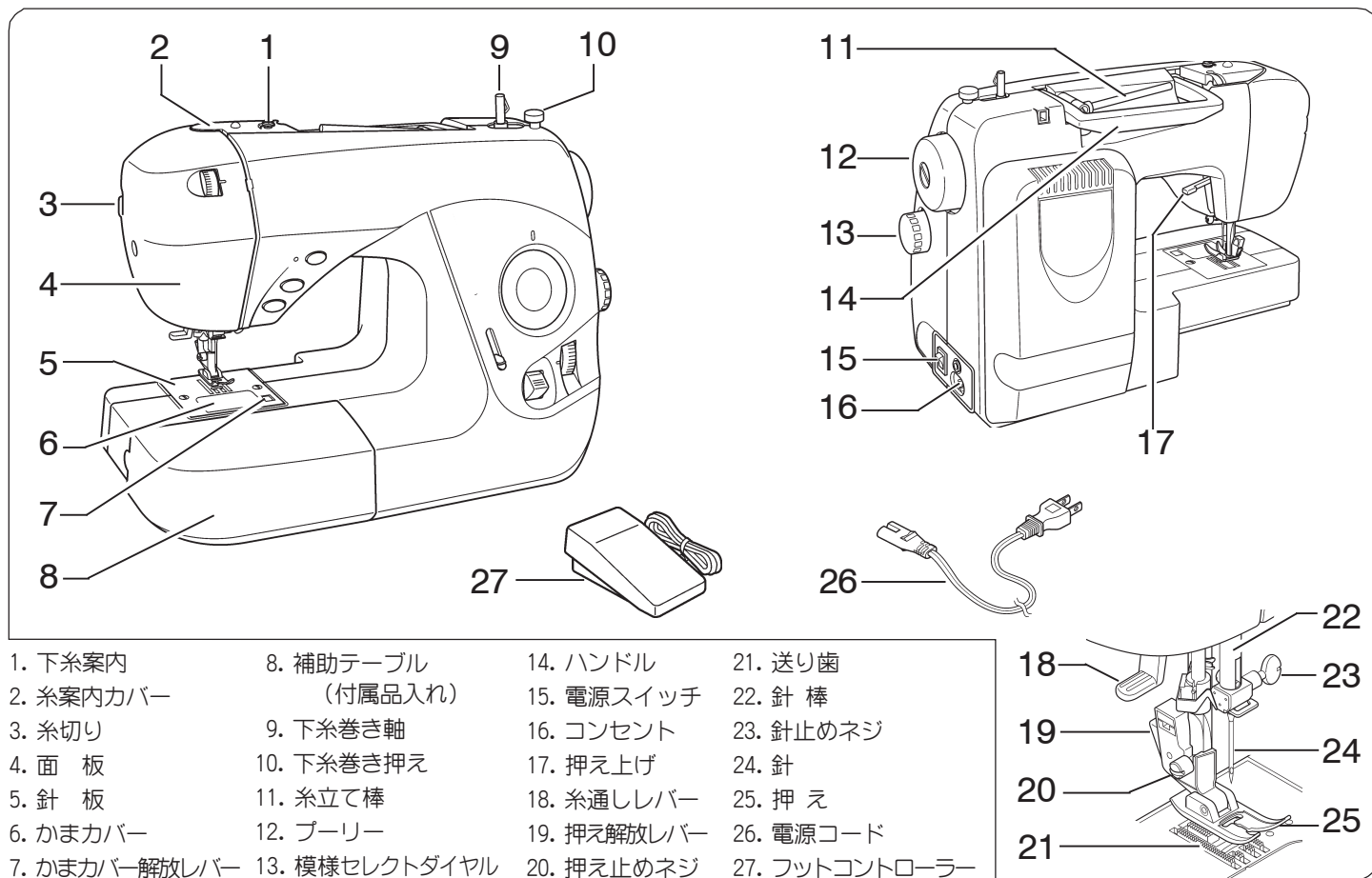
3

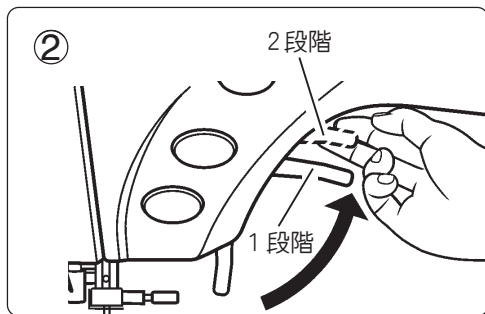
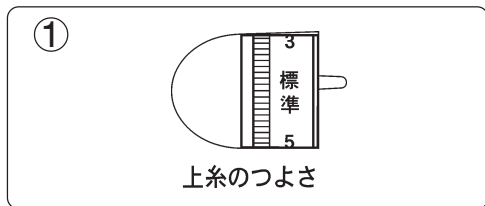
4

5

6

まず各部の名前と働きを覚えましょう





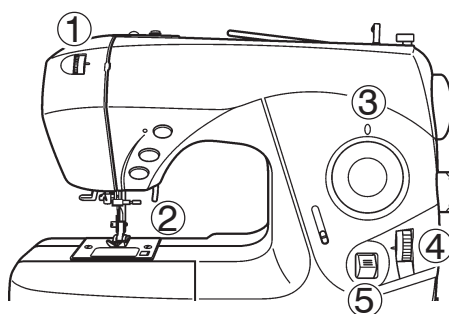
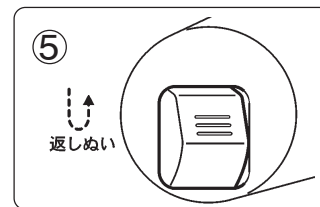
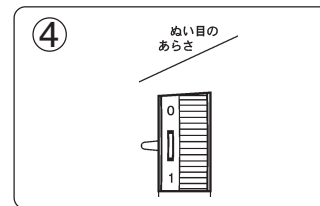
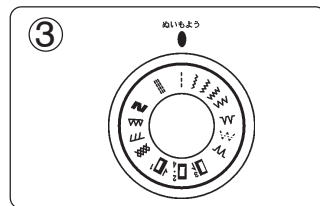
① 上糸調子ダイヤル

ダイヤルを回して上糸の調子を調節します。数字が大きくなるほど、上糸調子は強くなります。

※通常は標準の位置が適当です。

② 押え上げ

押え上げは2段階です。2段階目に上げる時は、押え上げを手で支えながら、さらに持ち上げます。



模様セレクトダイヤル

③ ぬいもよう表示

模様は窓に表示されるので、セレクトダイヤルを回すだけで希望の模様が選択できます。

④ ぬい目のあらかさダイヤル

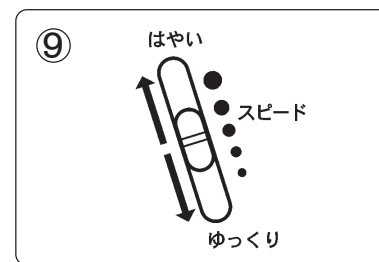
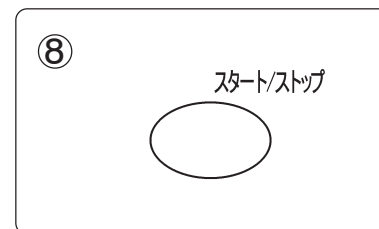
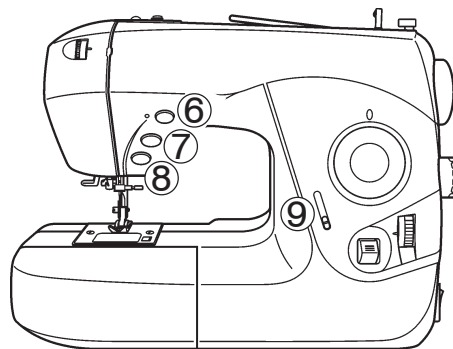
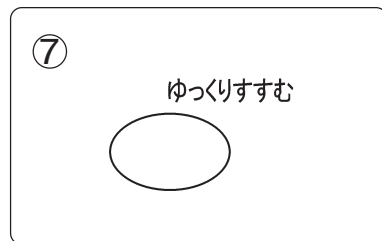
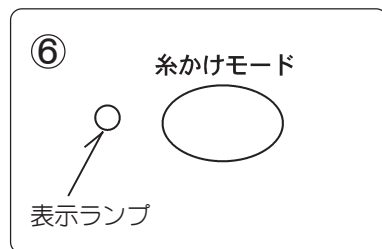
ぬい目のあらかさは数字が大きくなれば長くなります。

「」マークは、ボタンホールのセット位置です。

⑤ 返しぬいレバー

レバーを下に押し下げると、最低速で返しぬいができます。

③ 押えが上がっているときは、このスイッチを押してもミシンは動きません。



⑥ 糸かけモードスイッチ(糸かけ位置設定スイッチ)

上糸をかける前に、押え上げを上げ、このスイッチを押して表示ランプが緑色に点灯するのを確認してください。

押え上げを下げていますと表示ランプは赤色に点灯します。

⑦ ゆっくりすすむスイッチ(最低速縫い・停止スイッチ)

スイッチを押している間だけ、最低速でミシンは動きます。

ミシンが動いているときにこのスイッチを押すと、瞬時に速度が落ちゆっくり縫い始めます。

スイッチから手をはなすとミシンは停止します。

(注) 押えが上がっているときは、このスイッチを押してもミシンは動きません。

⑧ スタート/ストップスイッチ

電源スイッチを「ON」にした後、このスイッチを押すとミシンが動き出します。もう一度押すと、針は常に上に上がった位置で止まります。

(注) 押えが上がっているときは、このスイッチを押してもミシンは動きません。

⑨ スピードコントロール

このミシンには電子回路が内蔵されており、自由に速度調整が可能で、つまみを上に動かすとスピードが早くなり、下に動かすとスピードが遅くなります。

電源をつなぎましょう

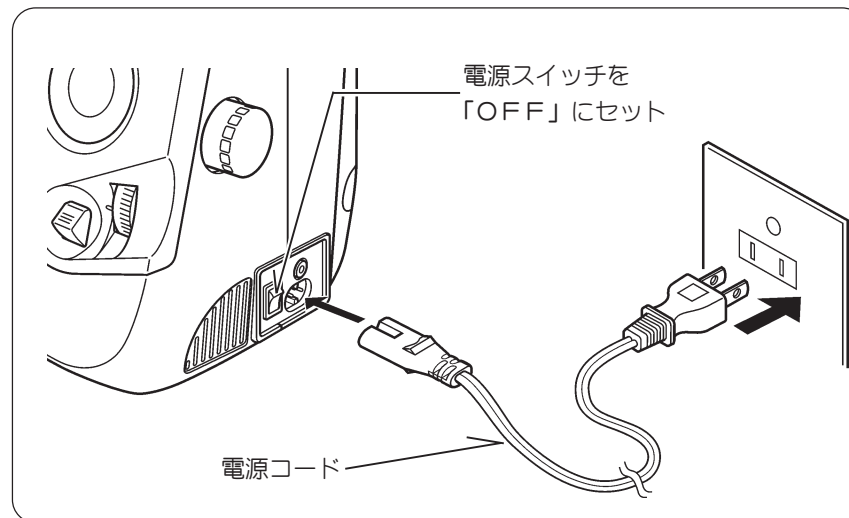
電源スイッチを「OFF」にしてください。



ミシンを使用しない時は、必ず電源スイッチを切り、電源コードを電源から抜いてください。

電源コードのプラグを ①、② の順にさしこみます。

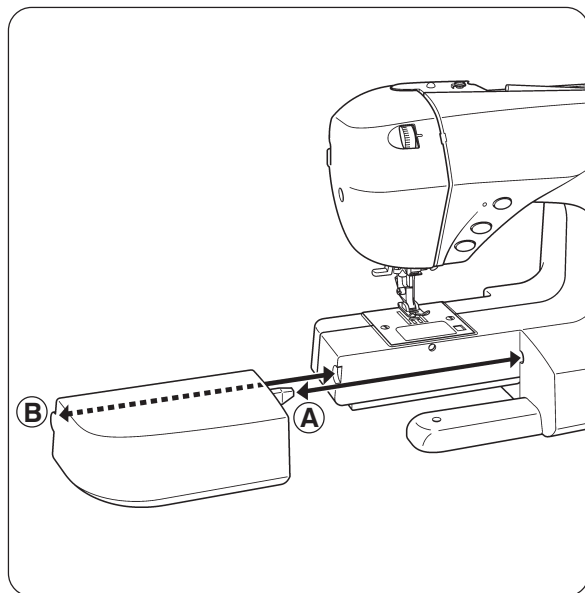
- フットコントローラーを使用する場合
(32ページを参照ください。)



自動停止装置について

- このミシンは、誤った操作などをしたとき、自動的に運転を止める安全装置がついています。
- たとえば、縫製中に糸がかまにくい込んだりしたようなとき、安全装置がそれを感知し、3秒以内に自動的に電流を遮断し、モーターを止めます。
- モーターが止まったら、糸がらみなどミシンを止める原因となったものを取り除いてください。
- 次に、プーリーを手前に回してみてもシンが動くようになったかを確認めた上で、再度スタートボタンを押してください。

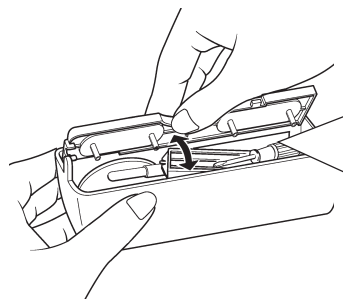
補助テーブルを取りはずしましょう



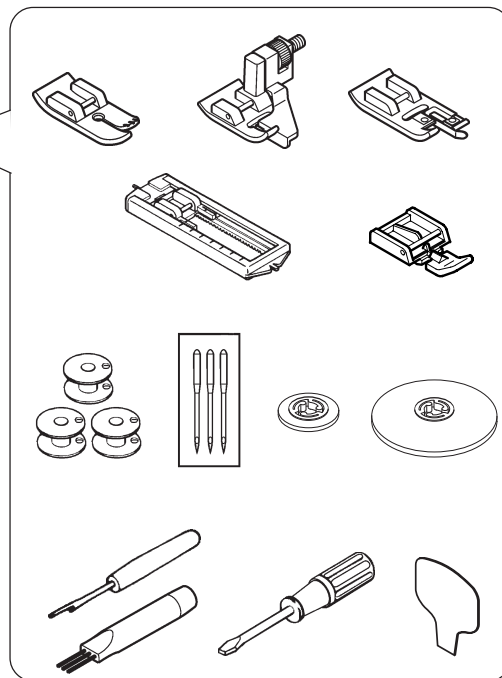
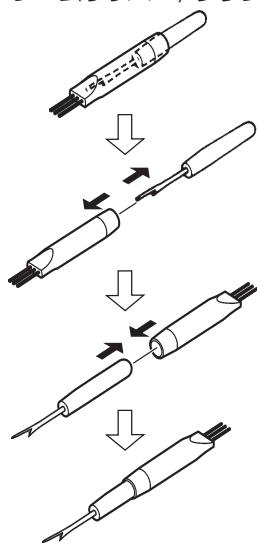
左へ引っばるとはずれます。
元にもどす時は、テーブルをミシンに沿って右にすべらせながら、① ② を所定の位置に差し込みます。

ふたを開けると付属品が入っています。(ふたの内側はボビンが格納できるようになっています。)
糸ごま押えを取り出しておきます。

6



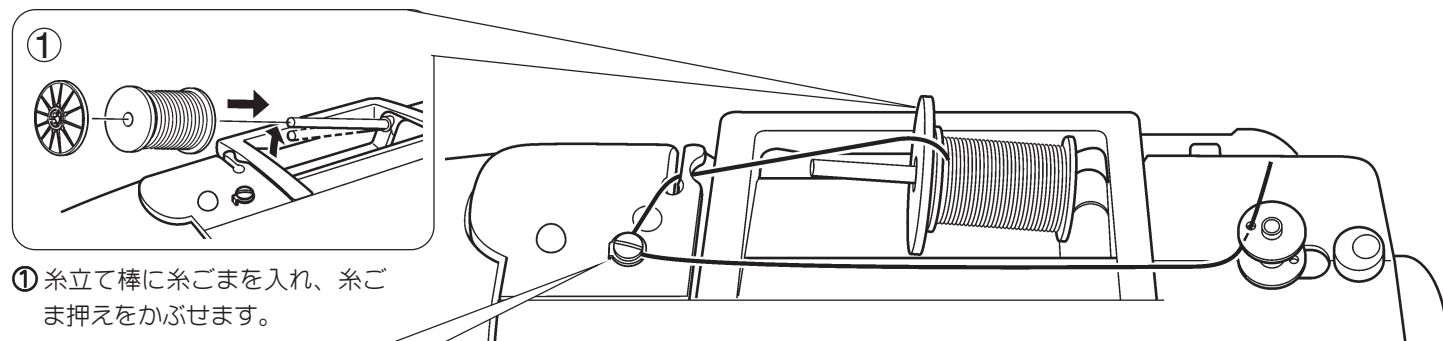
シームリッパー/ブラシ



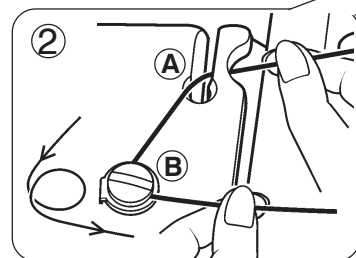
- | | |
|-----------|---------------|
| ①直線押え | ⑦ミシン針(#14x3本) |
| ②かくし縫い押え | ⑧糸ごま押え(小) |
| ③縁かがり押え | ⑨糸ごま押え(大) |
| ④ボタンホール押え | ⑩シームリッパー/ブラシ |
| ⑤ファスナー押え | ⑪ネジ回し |
| ⑥ボビン | ⑫針板用ネジ回し |

下糸をセットしましょう

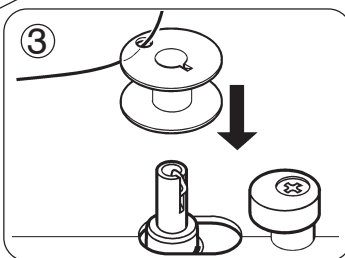
ボビンに糸を巻きます。



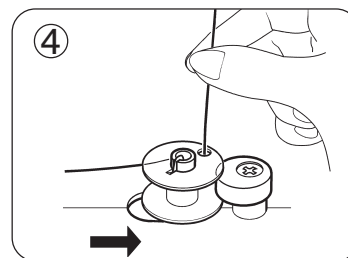
① 糸立て棒に糸ごまを入れ、糸ごま押えをかぶせます。



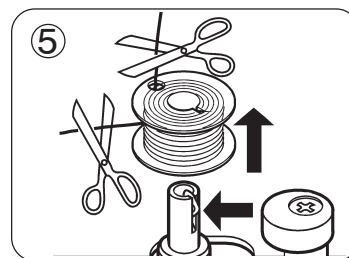
② 糸案内 (A)、下糸案内 (B) を経由して糸ごまから糸を引きます。
下糸案内 (B) では、糸を図のようにかけてください。



③ ボビンの穴に糸を通し、ボビンを下糸巻き軸にはめこみます。



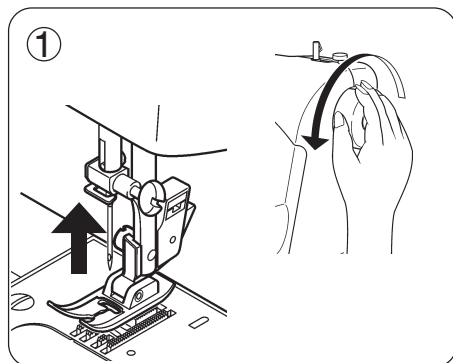
④ 糸の端を持ち、ボビンをカチッと音がするまで右に押します。スピードコントロールつまみでスピードを調整し、スタート/ストップスイッチを押して糸を巻きます。(糸を巻いている間は針は動きません。)
ボビンが数回転したら、糸を離してください。



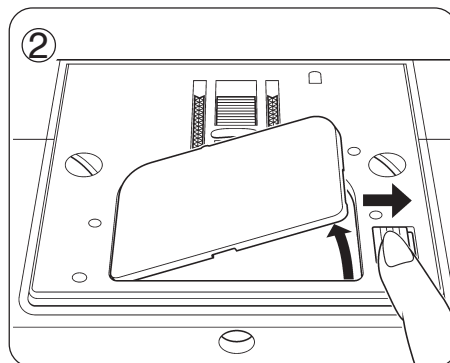
⑤ 下糸が一杯になって、ボビンの回転が止まったら、すぐにスタート/ストップスイッチを押してミシンを止めます。下糸巻き軸を左にもどして、ボビンを外し、糸の端を切ってください。

1

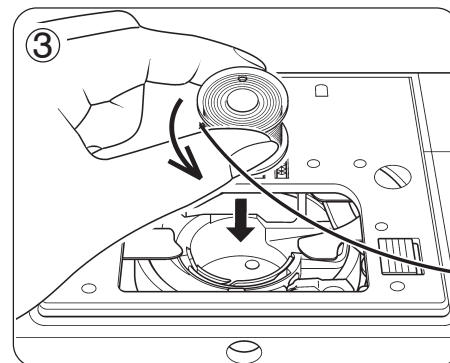
ボビンをセットしましょう。



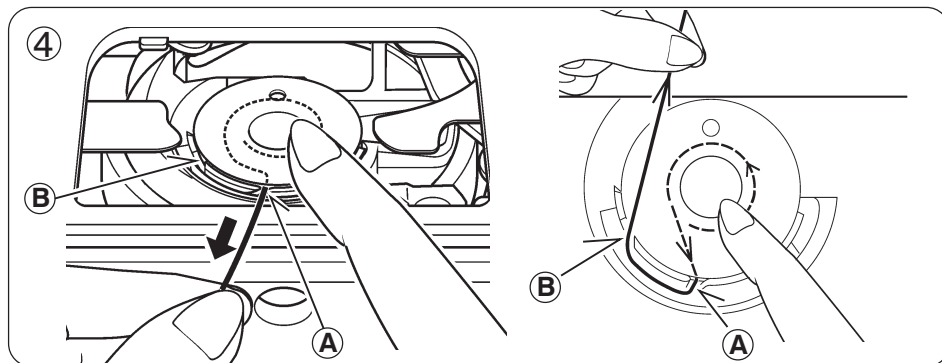
① プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。



② かまカバー解放レバーを矢印の方向に押し、かまカバーをはずします。

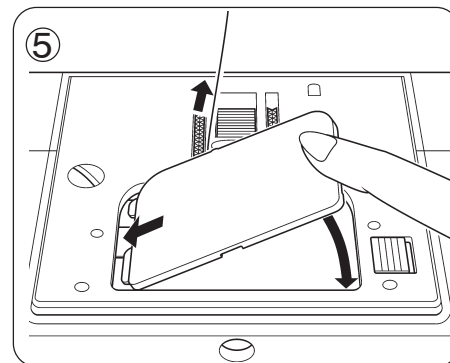


③ 糸の端を矢印の方向に出してボビンを入れます。



④ ボビンを指で押えながら、糸を手前のみぞ ① から ② にかけてるようにして向こう側に出します。

B

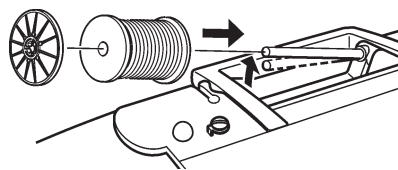


⑤ 糸を15cmほど引き出し、かまカバーを取り付けます。

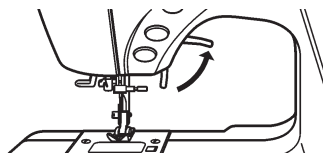
上糸をかけましょう

●まず上糸をかける前に行なってください。

a. 糸ごまと糸ごま押えをセットします。



b. 必ず押え上げを上げます。(押え上げを上げないと、糸調子がとれません。)

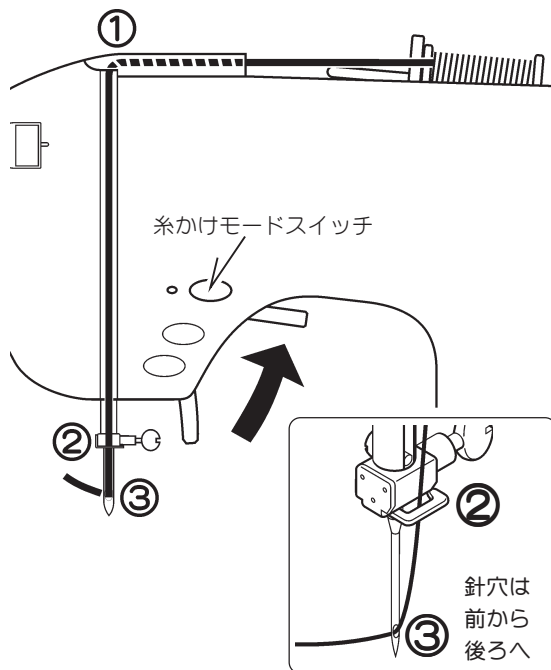
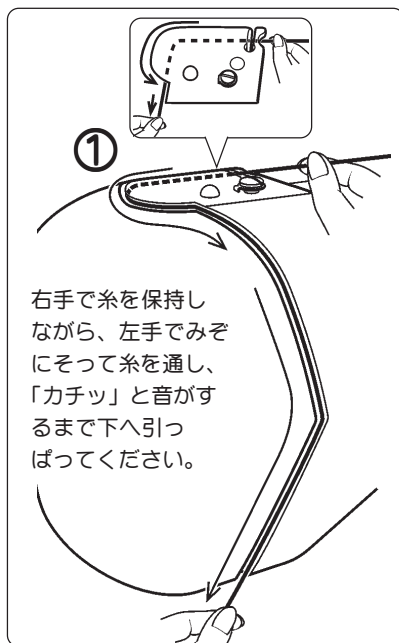


c. 糸かけモードスイッチを押し、表示ランプが緑色に点灯するのを確認します。

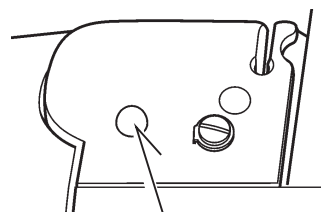
糸かけモード



●図の番号順に糸をかけます。



糸切れお知らせランプ



糸切れお知らせランプ

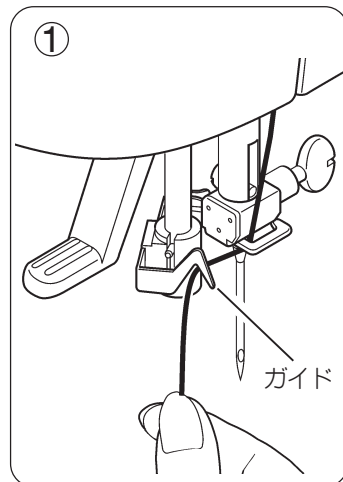
縫っている間に糸がなくなったり、糸切れすると、ミシンが停止してお知らせランプが赤色に点滅します。

押え上げを上げ、再度糸かけモードスイッチを押し、糸を通し直してください。

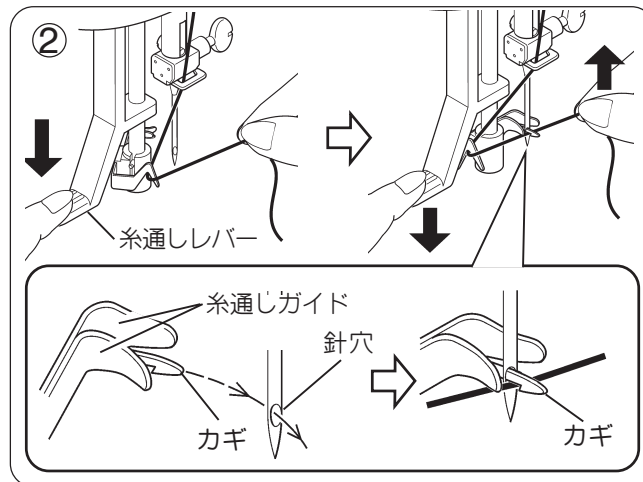
1

自動糸通し器の使いかた

押え上げを上げます。プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。



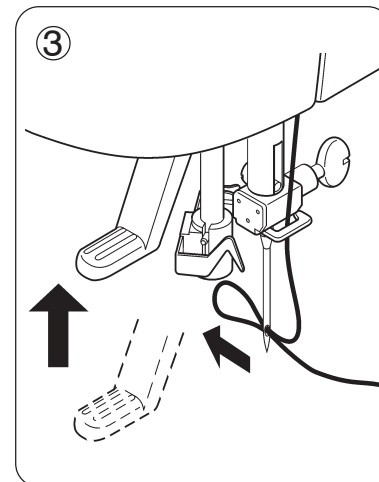
① 右手に糸を持ち、ガイドの右から左へかけます。



② **糸通しレバーをまっすぐ押し下げます。**

さらに、レバーを押し下げると糸通しガイドが時計方向に回転し、カギが針穴に通ります。糸をカギに引っかけます。糸の端を手前上方に持ってきて軽く持ちます。

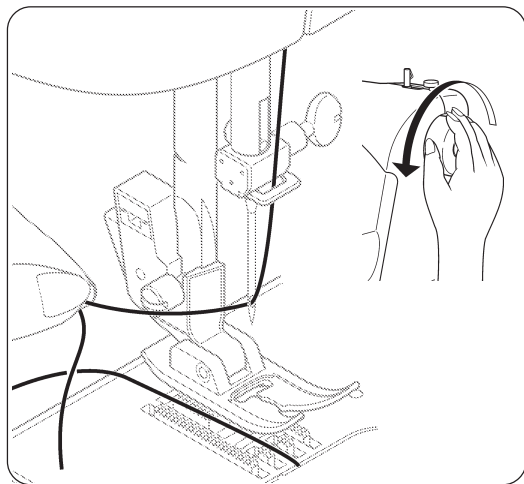
③ 針穴にカギが通らないままムリに押し下げるとカギが曲がり、針穴に通らなくなることがあります。



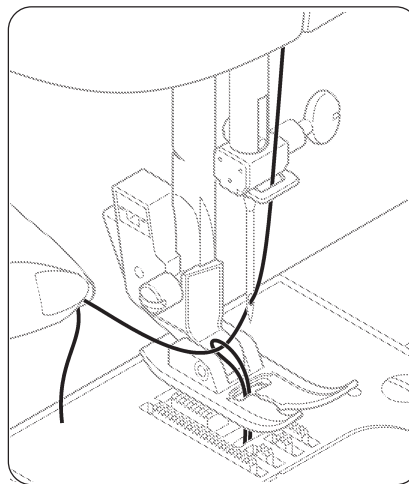
③ 糸通しレバーをはなすと、糸が針穴に輪になって通りますので、輪になった糸を向こう側に引き出してください。

④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆

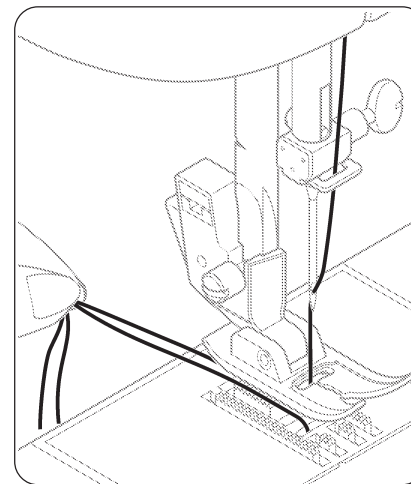
下糸を引き上げましょう



① 押え上げを上げます。左手で上糸を軽く持ち、プーリーを手前に一回転させます。



② 左手の上糸を軽く引き上げると、下糸が引き出されます。



③ 上糸と下糸をそろえて押えの下に通し、15cmほどうしろへ引き出しておきます。

1

押えの取りかえかた

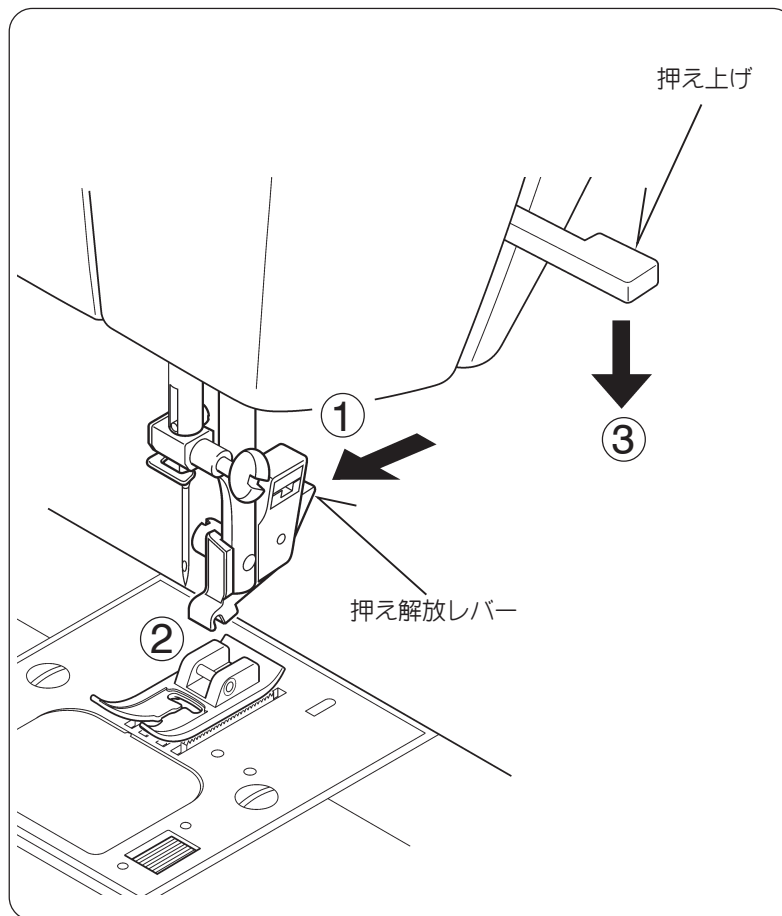


注 意

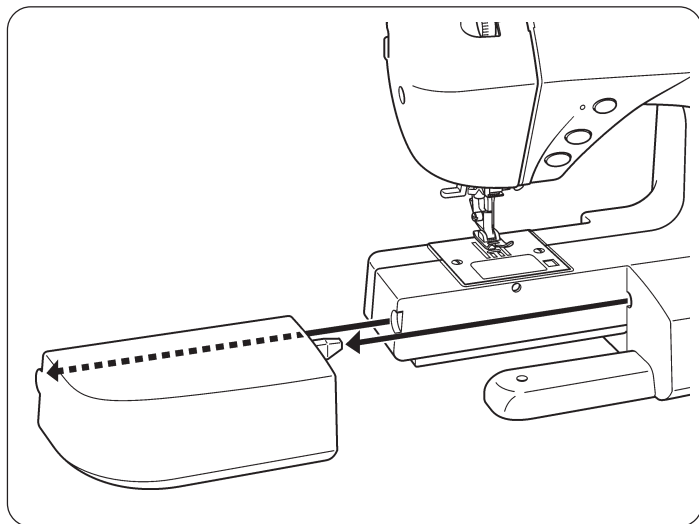
押えの取りかえは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

押えと針を上げます。

- ① 押え解放レバーを矢印の方向へ押すと、押えがはずれます。
- ② 針板と押えの針穴が合うように新しい押えを針板の上におきます。
- ③ 押え上げを下げると押えがセットされます。入りにくい時は、押え解放レバーを押すと入ります。



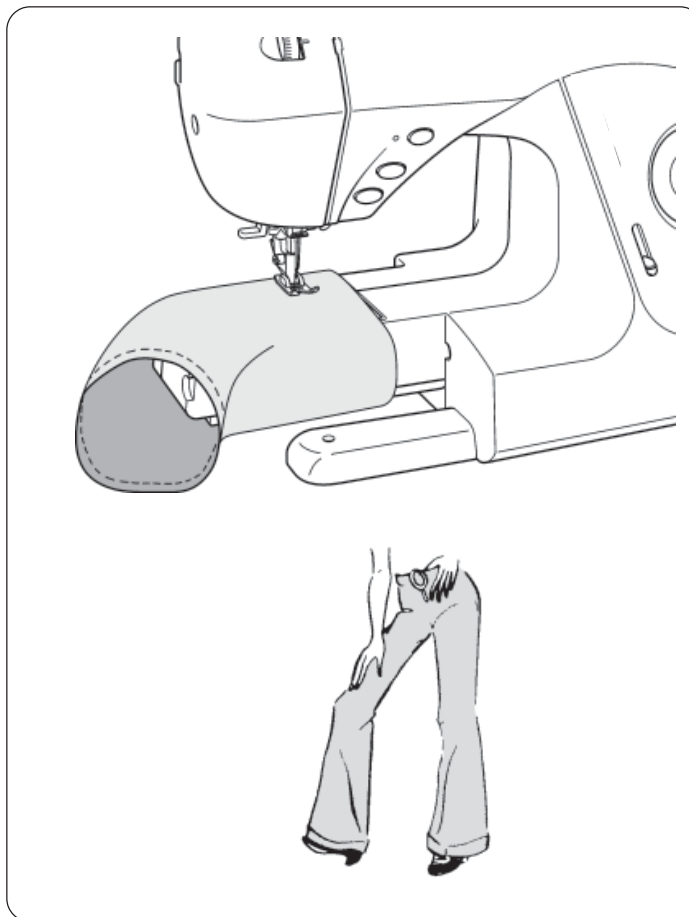
筒状になった部分を縫うには



補助テーブルをはずして、フリーアームにします。

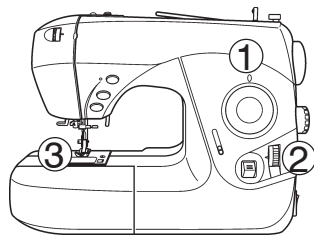
フリーアームに筒状になった部分を入れて縫います。

袖つけ、袖口の始末、カフスつけ、衿つけ、ズボンの裾口の始末に便利です。

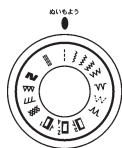


1

ミシンのセットのしかた



①ぬいもよう表示 ②ぬい目の
あらさ
ダイヤル



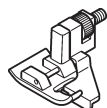
③ 押 え



直線押え



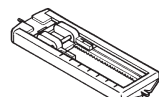
ジグザグ押え



かくし縫い押え



縁かかり押え



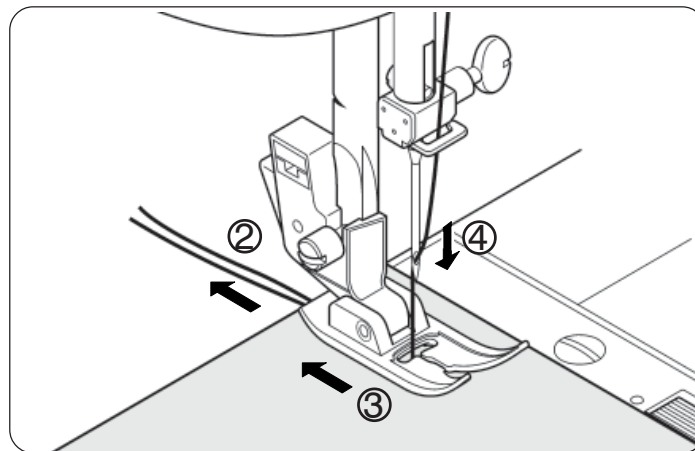
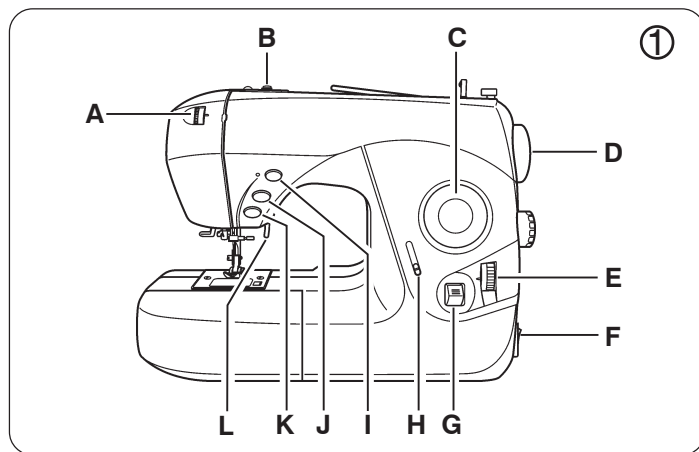
ボタンホール押え



ファスナー押え

ぬいもよう	①ぬいもよう表示	②ぬい目の あらさ ダイヤル	③ 押 え
直線縫い	-----	1 ~ 4	ジグザグ又は直線押え
ジグザグ縫い	~~~~~	0.5 ~ 4	ジグザグ押え
シェル縫い	~~~~~	0.5 ~ 4	ジグザグ又は縁かかり押え
点線ジグザグ縫い	~~~~~	1 ~ 3	ジグザグ押え
かくし縫い(ブラインドステッチ)	~~~~~	0.5 ~ 2	ジグザグ又はかくし縫い押え
直線伸縮縫い	~~~~~	1 ~ 3	ジグザグ又は直線押え
ジグザグ伸縮縫い	~~~~~	4	ジグザグ押え
オーバーロック縫い	~~~~~	4	ジグザグ押え
オーバーエッジ縫い	~~~~~	4	ジグザグ押え
スモッキング縫い	~~~~~	4	ジグザグ押え
ボタンホール	~~~~~	1 ~ 4	ボタンホール押え
ファスナー付け	-----	1 ~ 4	ファスナー押え

直線縫い



2

● 直線縫いはミシン縫いの基本ですので、試し縫いをして正しい使い方をよく覚えましょう。

- | | |
|----------------|------------------|
| A. 上糸調子ダイヤル | G. 返しぬいレバー |
| B. 下糸案内 | H. スピードコントロール |
| C. ぬいもよう表示 | I. 糸かけモードスイッチ |
| D. プーリー | J. ゆっくりすすむスイッチ |
| E. ぬい目のあらしダイヤル | K. スタート/ストップスイッチ |
| F. 電源スイッチ | L. 押え上げ |

② 上糸と下糸をそろえて押えの下から向こう側へ15cmほど引き出します。

③ 布を押えの下に入れ、押えを下げます。

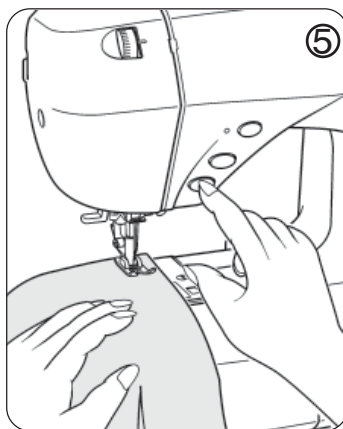
④ プーリーを手前に回して、針を布に突き刺します。

① ミシンをセットしましょう。

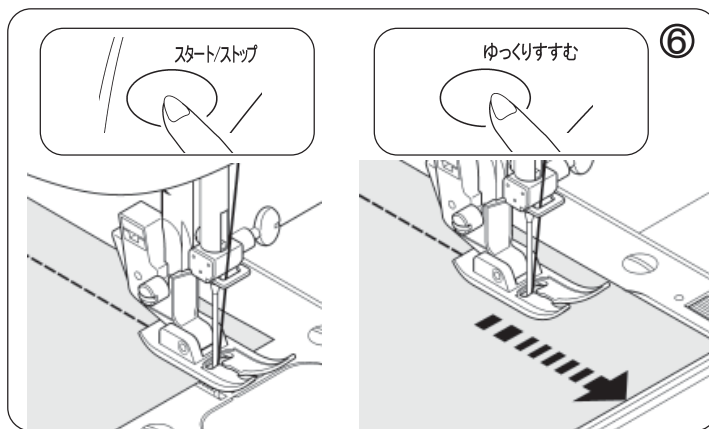
ぬいもよう「**1**」 ぬい目のあらし「**1～4**」

上糸調子ダイヤル「**標準**」

プーリーを手前に回して、針をいちばん上まで上げます。



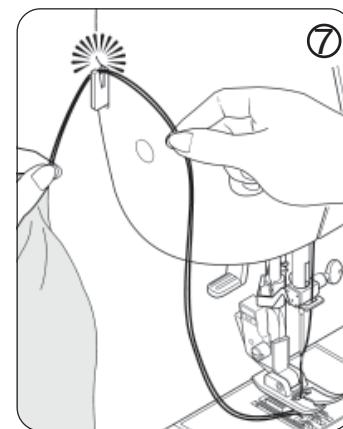
- ⑤ スタート/ストップスイッチを押して縫い始めます。「はやい」スピードをお望みの場合は、スピードコントロールのつまみを上に動かしてください。縫っている間は、ミシンの布送りに合わせて、軽く導いてください。



- ⑥ ミシンの止めかた
スタート/ストップスイッチ使用時
布はしまで来たら、スタート/ストップスイッチをもう一度押してミシンを止めます。

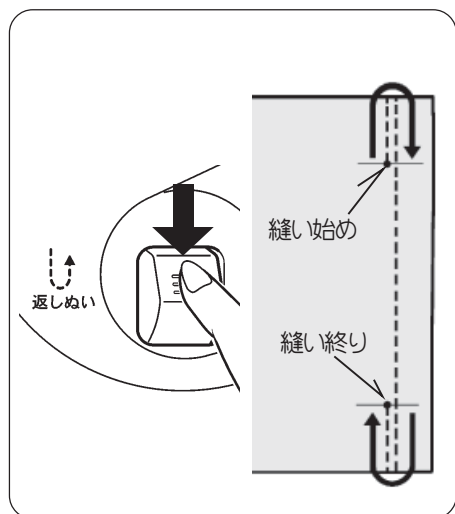
ゆっくりすすむスイッチ使用時
布はしに近づいたら、ゆっくりすすむスイッチを押して、スピードを落として縫い、縫い終わりでスイッチをはなすと、ミシンは止まります。

(パッチワークなどのカーブ縫いなど、丁寧な裁縫に便利です。)



- ⑦ 縫い終わりましたら、針と押えを上げ、布地をうしろへ引き出し、面板部の糸切りで糸を切ります。

返しぬい



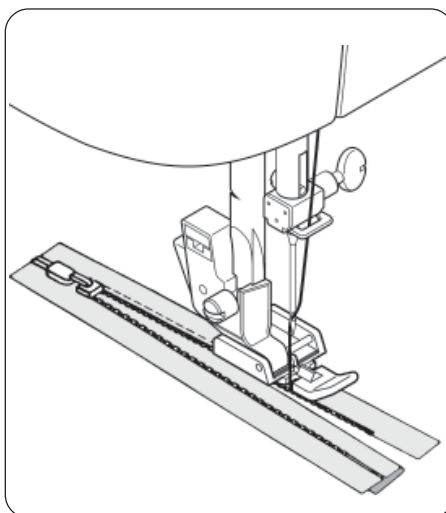
縫い始めと縫い終りに3～5針返しぬいをしておきますと、縫い目がほころびず、丈夫になります。

レバーを押し下げている間、最低速で返しぬいをします。

レバーをはなすとミシンは止まります。

⑨ 電源スイッチが「ON」のとき、このレバーを押すとミシンが動きますので、返しぬい以外はさわらないでください。

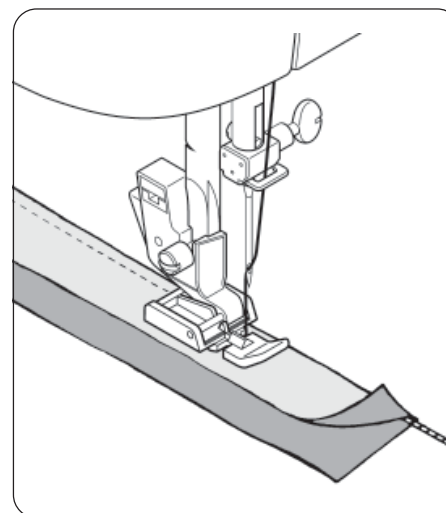
ファスナーつけ



ファスナーの右側を縫うときは、押えの左側の切りかきに針が落ちるように、押えをセットします。

左側を縫うときは、右側に針が落ちるようにセットします。

パイピング



バイステープを外表に折るか、バイステープでコードをくるみ、ファスナー押えの右側に針が落ちるようにセットして縫います。

縫いにくい布地の縫いかた

● 薄物（レース布、薄物布）

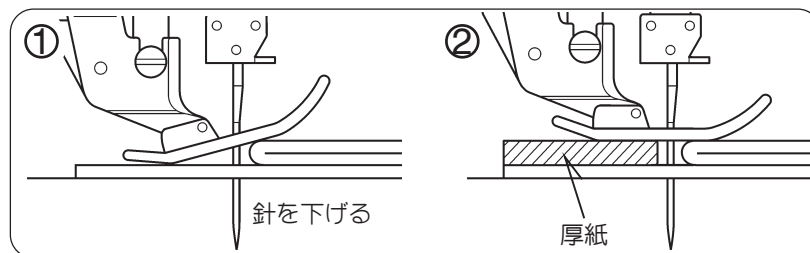
- レース布や特に薄い布地の場合、布の下に紙を敷きます。縫い終わったら、紙を取り除きます。
薄物縫いで目飛びしたり、しわがよる場合も紙を敷いてください。
- 薄物の縫い始めは、上糸と下糸を少し引っぱりながら縫います。

● 厚物（タオル布）

タオル布を縫う際は、布の種類によって布送りが悪くなる場合があります。布の下に紙を敷き、太い針 #16 を使用し、ゆっくりとしたスピードで縫います。縫い終わったら、紙を取り除きます。

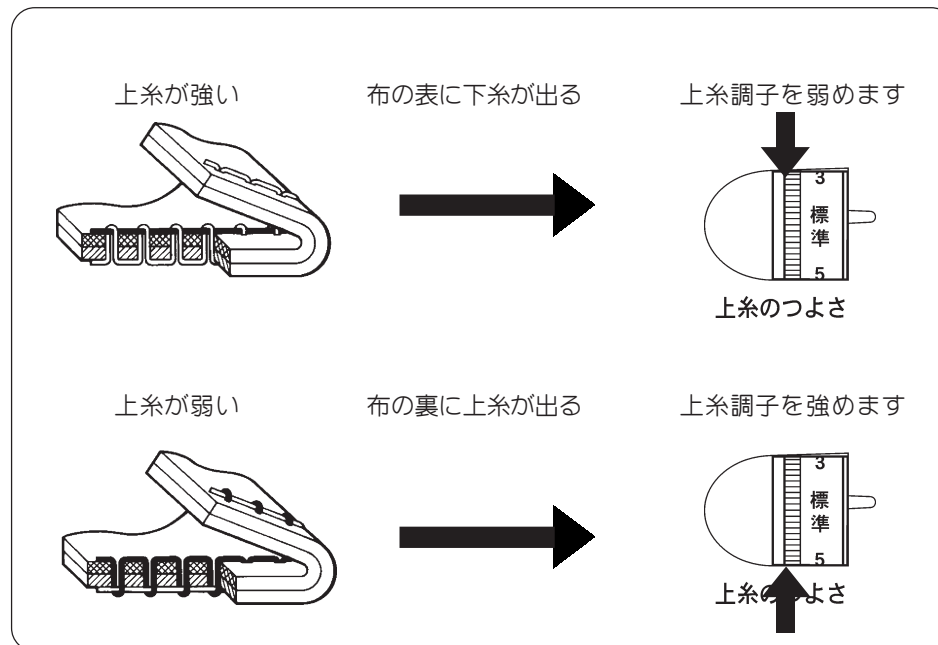
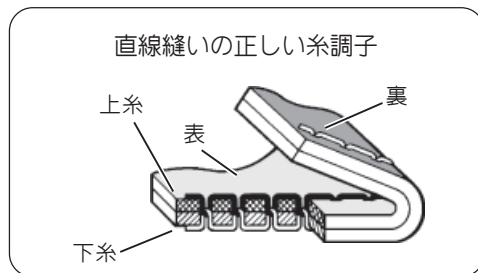
● 段 縫 い

- 布送りがスムーズでない場合、手で布の送りを助けながら縫います。
- 図のように重なった厚地の布を縫う場合は、図①の状態でミシンを止め、針を下げます。図②の様に同じ厚さの布地または厚紙を押えの下に敷いて縫います。布送りがスムーズになり、目飛びも防げます。



糸調子のと리카た

直線縫いの場合、上糸と下糸が布の中間で、適当な張力をもってからみ合うのが正常な糸調子です。



※ 上糸調子ダイヤルの数字が大きくなるほど上糸調子は強くなります。(通常は標準の位置が適当です。)

※ 本機は水平釜ですので、基本的には下糸の調節は不要です。(製造時調節済)

針と糸と布地

※ H A × 1 家庭用ミシン針を使用してください。

※ 下表を参考にして、布地に適した針と糸を使用してください。

※ 上糸と下糸は通常同じ種類のものを使います。

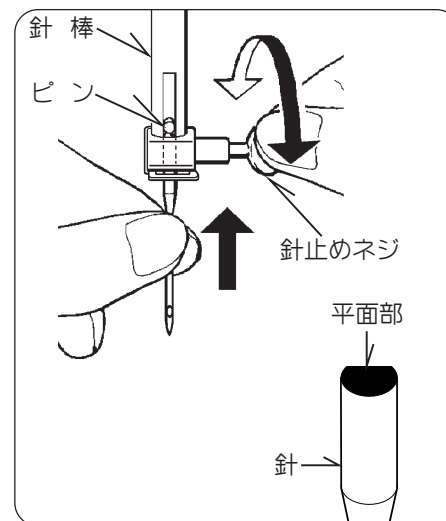
※ 曲がった針や先の丸くすりへった針は使用しないでください。

※ 縫いにくい布地の縫いかたは18ページを参照ください。

布 地	針	糸	ぬい目のあかさ (直線縫い)
薄地デシン 薄 絹 地	9 番 ・ (細 い)	1 2 0 番 ・ 1 0 0 番	1.5
薄 物 布 地	1 1 番 ・ (やや細い)	1 0 0 番 ・ 8 0 番	2
キャラコ 木 綿 地 サージ 伸 縮 布 地	1 4 番 ・ (普 通)	6 0 番 ・ 5 0 番	2~3.5
毛 織 物 厚 地 類	1 6 番 ・ (太 い)	4 0 番 ・ 3 0 番	2.5~4

※ 伸縮布地等、目とびしやすい布地にはニット針の使用をおすすめします。

針を取りかえるには



⑨ 必ず電源スイッチを切ってください。

① プーリーを手前に回し、針棒を最上点に上げます。

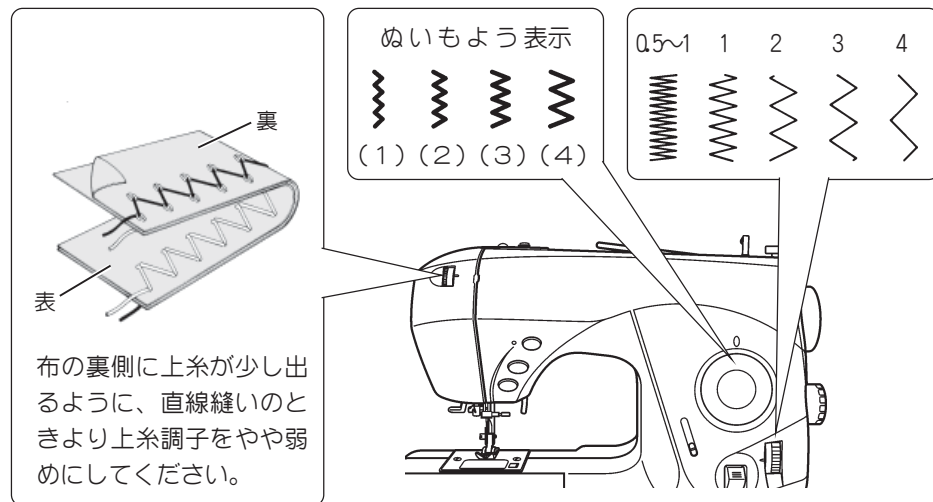
② 針止めネジを手またはネジ回しでゆるめ、針をはずします。

③ 新しい針の柄の平らな面を向こう側に向けて持ち、針が針棒のピンに当たるまで差しこみます。

④ 手またはネジ回しで針止めネジをかたくしめます。

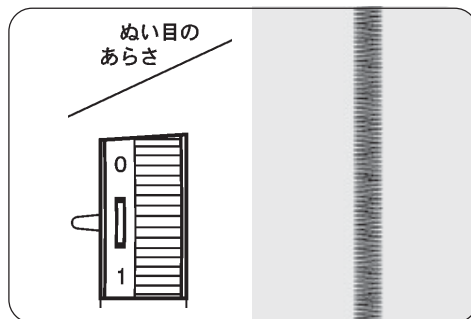
ジグザグ縫い

ミシンをセットしましょう。



サテステッチ (密着縫い)

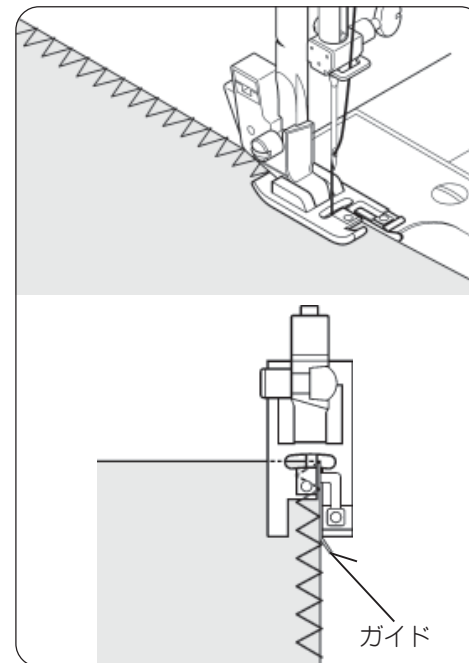
ジグザグ縫いでぬい目のあらさダイヤルを「0.5」ぐらいにセットすると、目のつまったきれいな縫い目ができます。



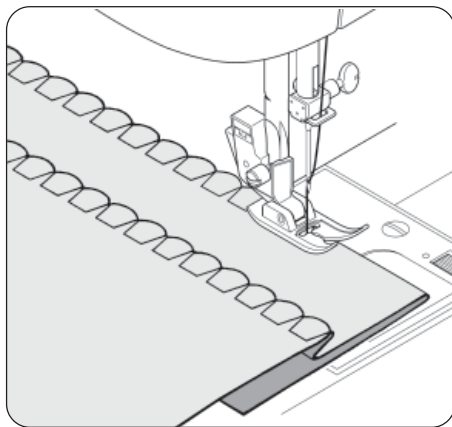
縁かがり押えで縫う

ぬいもよう表示 (4)

裁ち目かがり(縁かがり)がきれいにできます。
布の端を押え金のガイドにそわせて縫います。
プーリーを手で回して針が押えに当たらないよう、確認してください。



シェル縫い



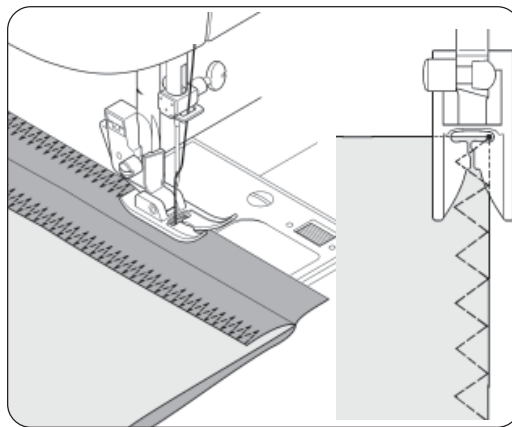
シェルステッチは、その名の通り貝殻を一直線に並べたような装飾模様として使えますので、ランジェリーやガウンの仕上げに最適です。

針が右側に落ちる時、布地にかからないようにして縫ってください。

縫う前に、はぎれを使ってテスト縫いされることをおすすめします。

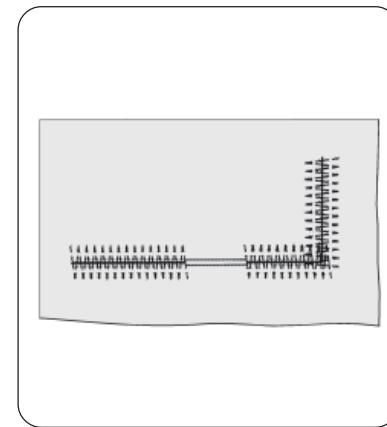
上糸の糸調子を通常の場合より少し強めにします。

点線ジグザグ縫い



裁ち目かがり めい目のあかさ 2

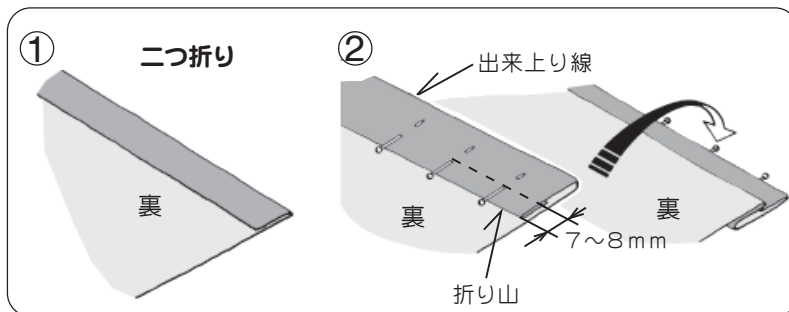
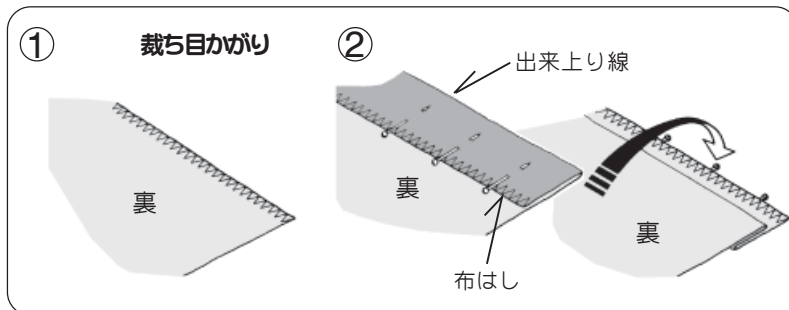
点線ジグザグ縫いは、ジグザグ縫いが一針で縫うところを三針で縫いますので、丈夫に縫え、伸縮性があります。どのような種類の布の裁ち目かがりにも使えます。



つくろい縫い

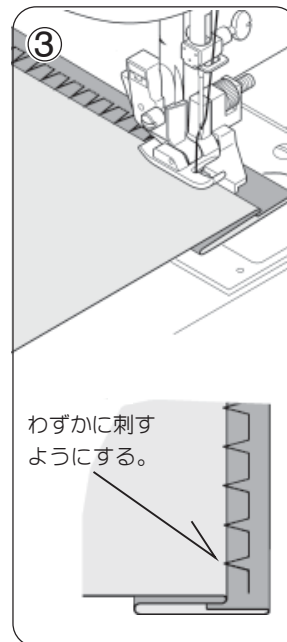
めい目のあかさ 0.5
布の裂け目をつくろうには、裂け目を押えの下に置き、針が裂け目の両側を拾うように縫います。裂け目の角を縫う場合は、両側から角の中心に向って縫っていきます。裂け目の下に布を一枚あててやると丈夫につくろえます。

かくし縫い(ブラインドステッチ)

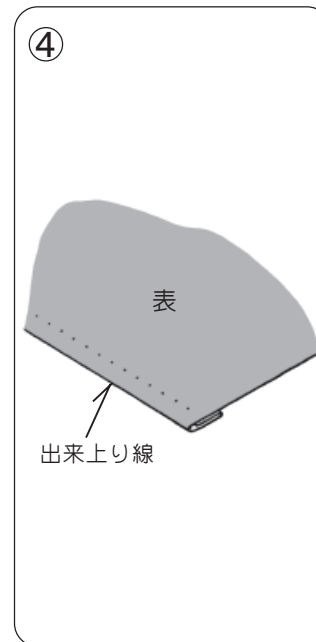


① 布端を裁ち目かがりするか、二つ折りにします。

② 出来上り線にそって布を折り、布はしまたは、折り山から約7~8mm入ったところからすそに向かって、図のように待ち針で止めます。
次に、待ち針を持って折り返します。

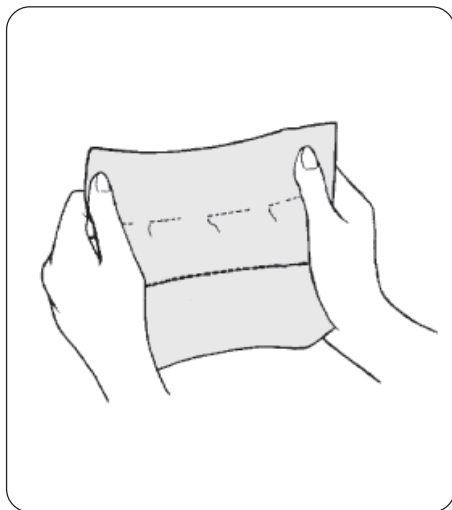


③ 針が左に落ちるとき、針が折り山をわずかに刺すように縫っていきます。



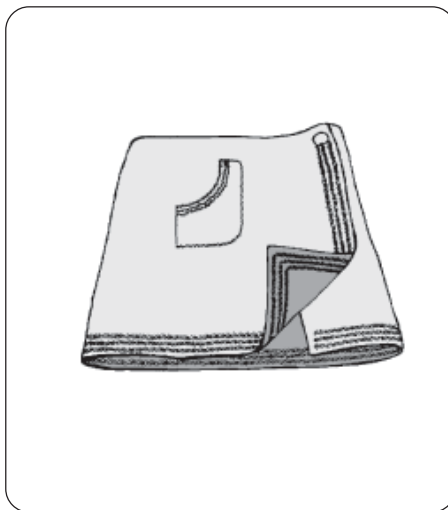
④ 布を表にひらくとできあがります。

直線伸縮縫い



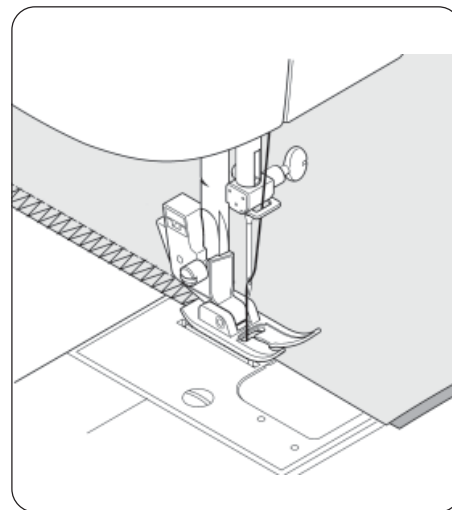
図のように布地をひっぱると、普通の縫いでは糸が切れますが、伸縮縫いは縫い目が伸び縮みして糸が切れません。

ジグザグ伸縮縫い



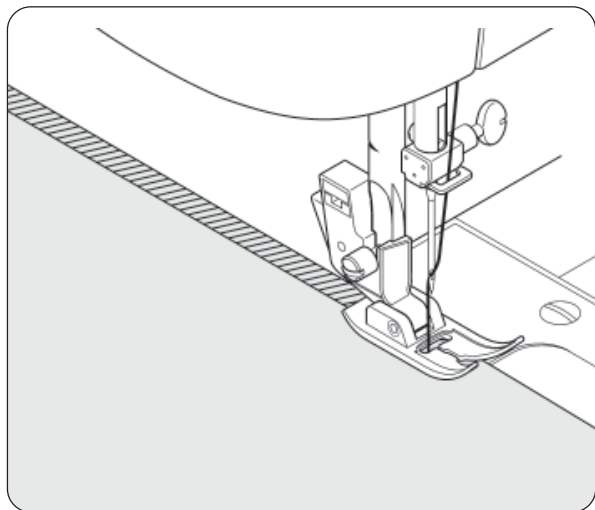
縫い目に伸縮性があるので、ニットや、ジャージ、トリコットなどの伸縮性のある布地に適しています。

オーバーロック縫い



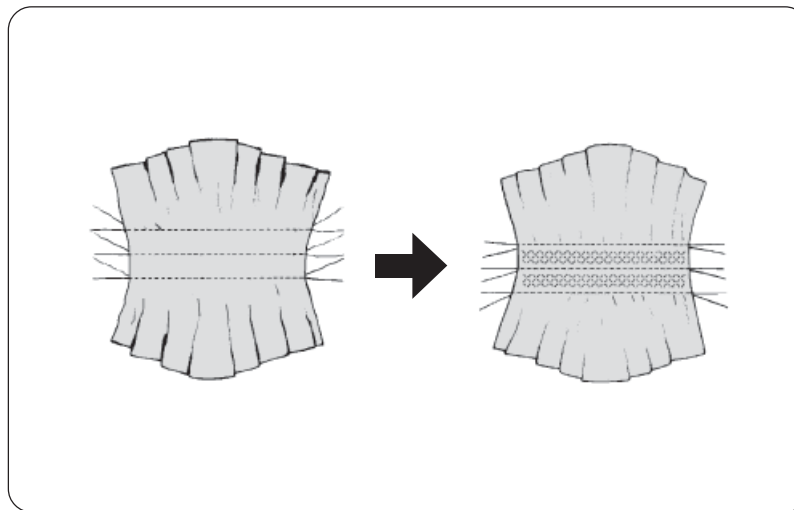
地縫いとかがり縫いを一度にし、又伸縮性があるので、ブラウス地や綿ジャージ、薄い生地 of 縫い代の仕上げを始めとし、小物、手芸品などの飾り縫いに最適です。針は14番以上は使用しないでください。

オーバーエッジ縫い



トリコットや柔らかいジャージのような伸縮性のある布地に最適です。

スモッキング縫い

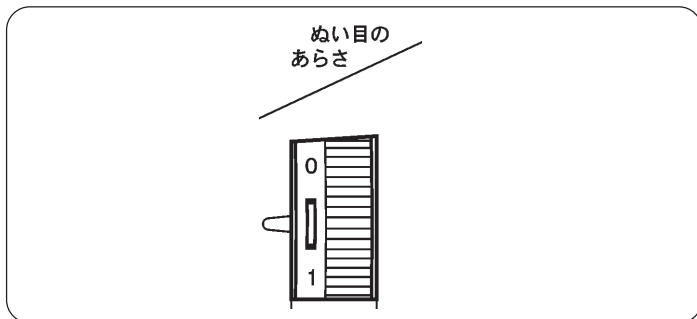


2

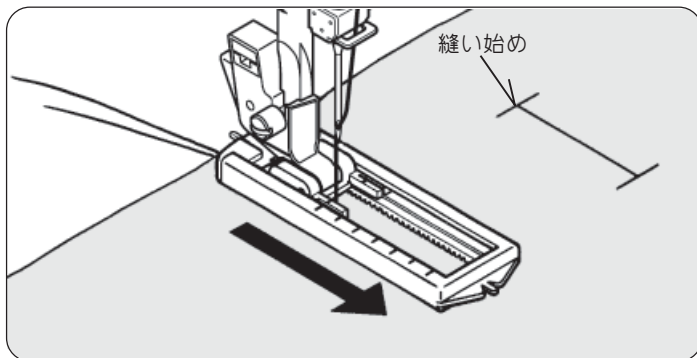
- ① 上糸調子を弱くして、1センチ位の間隔を開けて直線縫いをしてください。
- ② 下糸だけを引っぱってギャザーを寄せ、上糸と下糸を結んでギャザーを固定します。
- ③ 直線縫いの間をスモッキング縫いします。直線縫いの糸をほどきます。
ヨーク、ベビー服、幼児のドレス、ランジェリー、タック押えに最適です。

ボタンホール(ボタン穴かがり) $\downarrow\Box^1 \Rightarrow \Box^{2:4} \Rightarrow \Box^3 \Rightarrow \Box^{2:4}$

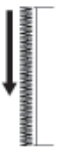
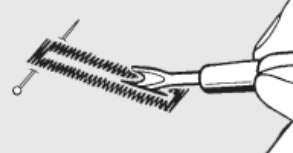
縫い始めのセット



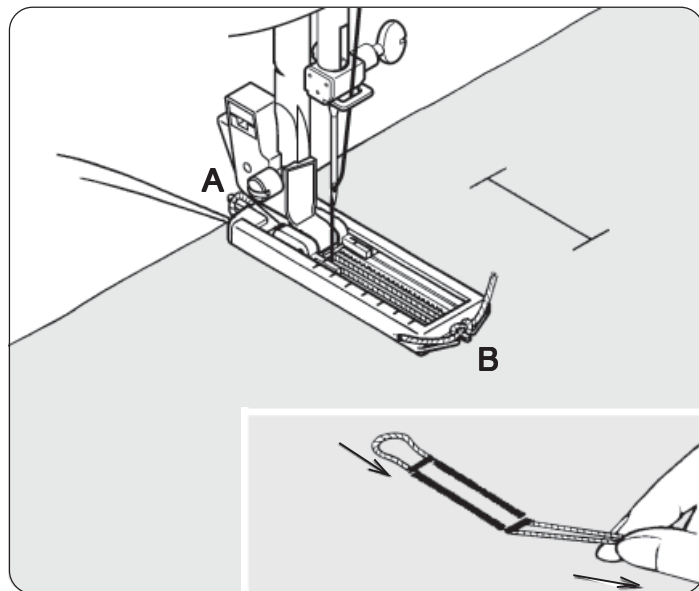
- ボタンホール押えをセットし、押えを手前にいっぱいにつっぱり出し、縫い始めの位置に合わせて押えを下げます。
- 伸縮性のある布地で、進みにくい場合は、布地の下に不織布の接着芯を張ってください。
- 使用される布切れで試し縫いをされることをおすすめします。



縫い方

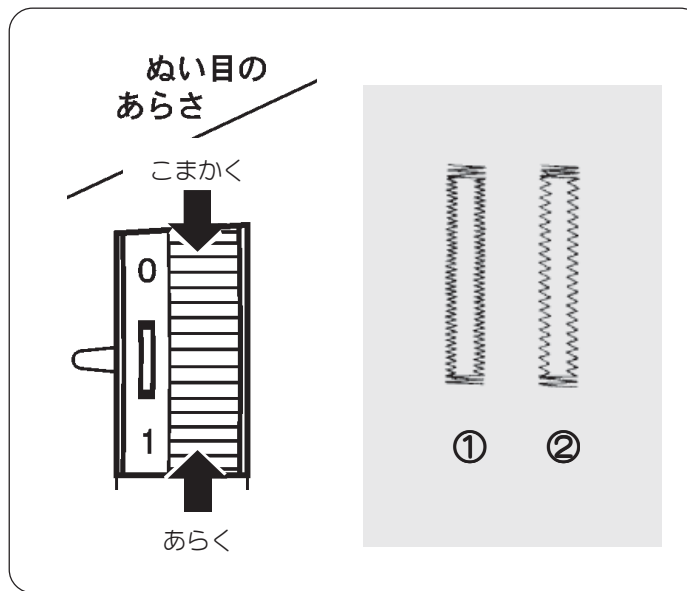
①	$\downarrow\Box^1$		矢印の方向へ必要な長さだけ縫ってください。
②	$\Box^{2:4}$		左右に4～5針縫ってください。
③	$\Box^3$		自動的にバック縫いしますので、縫い始めの線まで縫ってください。
④	$\Box^{2:4}$		左右に4～5針縫ってください。
			縫い終わったらシームリッパーで中央の布地を切り開きます。その際縫い糸を切らないように注意してください。

芯糸入りボタンホール



- 芯糸を入れて縫うと、ボタン穴の伸びを防ぎ、強いボタン穴ができます。芯糸にはレース糸または穴糸を使います。
- 芯糸をボタンホール押えのうしろの突起(A)に引っかけて、押えの下を通して前の突起(B)に結び付けます。このまま押えを取りつけて穴かがりすると、芯糸入りのボタンホールができます。
- 縫い終わったら芯糸を押えからはずし、糸の端を引いてたるみをなくし、余分の糸を切り取ります。

ボタンホールのぬい目のあらかさ調整



使用する布地の種類や厚さによって、縫い目のあらかさを調整します。

①縫い目をこまかくするには、ダイヤルを“0”の方へ回します。

②あらくするには、“1”の方へ回します。

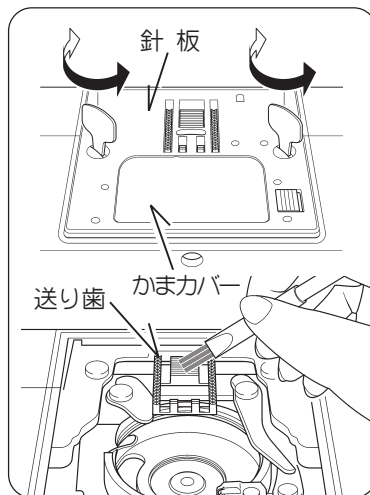
ミシンのお手入れ

ミシンを長もちさせるためには、日常の手入れが大切です。



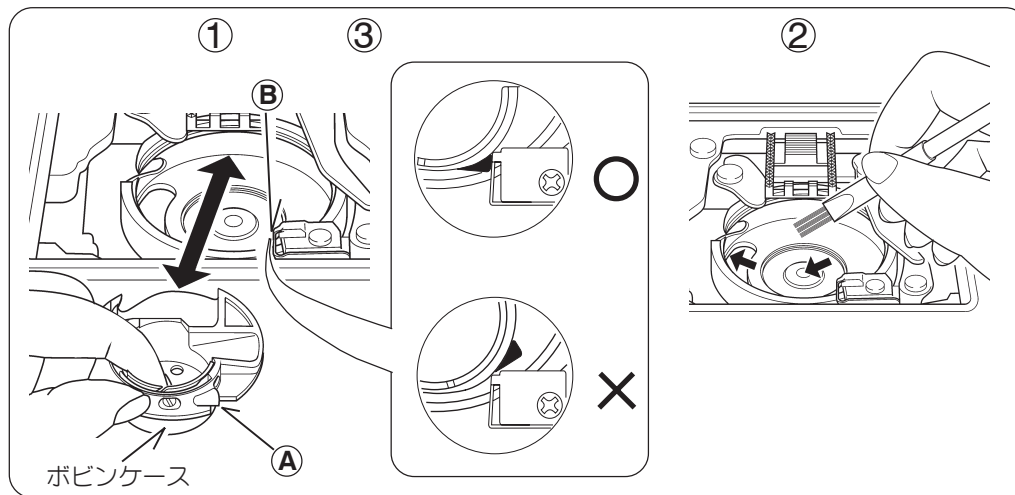
ミシンのお手入れをするときは、安全のために必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

送り歯の掃除



針板、かまカバーをはずして送り歯及びかま周辺の糸くずなどを、付属のブラシで取り除きます。

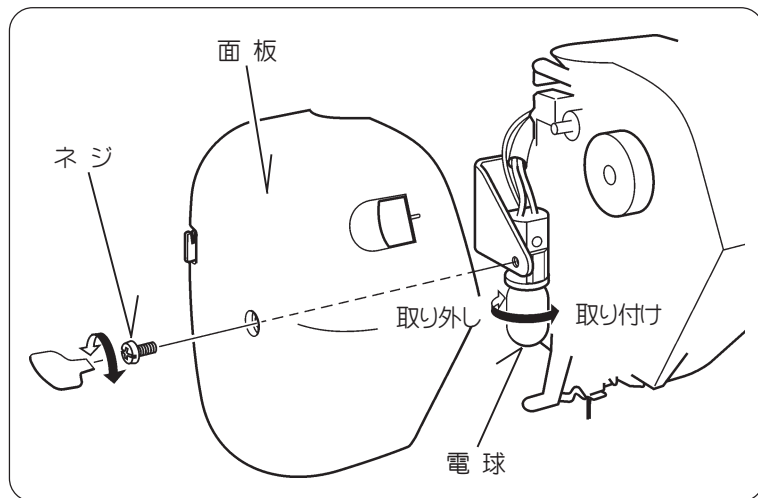
かまの掃除



プーリーを手前に回して針を最上点に上げます。

- ① ボビンケースを図のように抜き取ります。
- ② かま内部のほこりをブラシできれいに取り除きます。溝隅のほこりが取れにくい時は爪楊枝でかまに傷をつけないようにして取り除きます。矢印の部分にミシン油を一滴さします。
(注) 差しすぎた場合には、きれいにふき取ってから、ボビンケースをかまに入れてください。
- ③ ボビンケースの突起部 (A) がストッパー (B) の左側にくるようにかまに入れます。針板、かまカバーを取りつけます。

電球の取り換え



- ① 電源プラグを電源から抜いてください。
- ② ネジを外し、面板を取り外します。
- ③ 電球を左に回して取り外し、新しい電球（110V、15Wネジ込み式）を右に回して取り付けます。
④ 15W以上の電球を使用しないでください。
- ④ 面板を元の位置に取り付けます。

ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう

こんな時には	原因	対処	参照ページ
ミシンが回らない	下糸巻き軸が右になっている。	下糸巻き軸を左へ押します。	7
	電源コードが正しくセットされていない。	正しくセットし直します。	5
	電源スイッチが“OFF”の位置にある。	スイッチを“ON”の位置にセットします。	5
	押えを下ろしていない。	押え上げを下ろして、押えを下げます。	-
回転が重い 音が高い	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	28
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	20
布を送らない	押えを下ろしていない。	押え上げを下ろして、押えを下げます。	-
	ぬい目のあらさダイヤルが“0”の位置にある。	ダイヤルを“1～4”に合わせます。	-
	厚物縫いの場合		18
縫い目がとぶ	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	20
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	20
	針が針棒のいちばん奥まではいっていない。	正しくつけ直します。	20
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	19
	上糸のかけ方が間違っている。	正しくかけ直します。	9
	糸くずがかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	28
	縫いにくい布地の場合		18
針が折れる	無理に布を引っぱった。	布は軽く案内するだけにしてください。	-
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	20
	針が針棒のいちばん奥まではいっていない。	正しくセットし直します。	20

こんな時には	原 因	対 処	参照 ページ
針が折れる	押えが正しく取り付けられていない。	押え止めネジを締め直します。	-
	段縫いの場合		18
糸が 布と針板の間で だんごになる	縫い始めに上糸と下糸を向こう側に引き出して いない。	常に両糸をそろえて押えの下から向う側へ 15cmほど引き出します。	11
上糸が切れる	上糸のかけ方が間違っている。	正しくかけ直します。	9
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	19
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	20
	針が曲がっている。	新しい針と取り換えます。	20
下糸が切れる	ボビンケースの糸の通し方が間違っている。	正しくセットし直します。	8
	糸くずがボビンケースやかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	28
縫い物に しわがよる	糸調子が強すぎる。	糸調子を弱めます。	19
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	20
	薄物に対して縫い目が大きい。	縫い目を小さくします。	-
	薄物縫いの場合		18
上糸がかまに からまって 取り除けない	上糸をすこしゆるめ、プーリーを手前に回して糸を引き上げます。		-
	かまにからまっている糸をはさみで切って取り除きます。		-
	ボビンケースの位置がずれている。	正しい位置にセットします。	28

フットコントローラーの使いかた

電源スイッチを「OFF」にしてください。



注 意

マシンを使用しない時は、必ず電源スイッチを切り、電源コードを電源から抜いてください。

● 電源のつなぎ方

電源コードのプラグを ①、② の順にさしこみます。

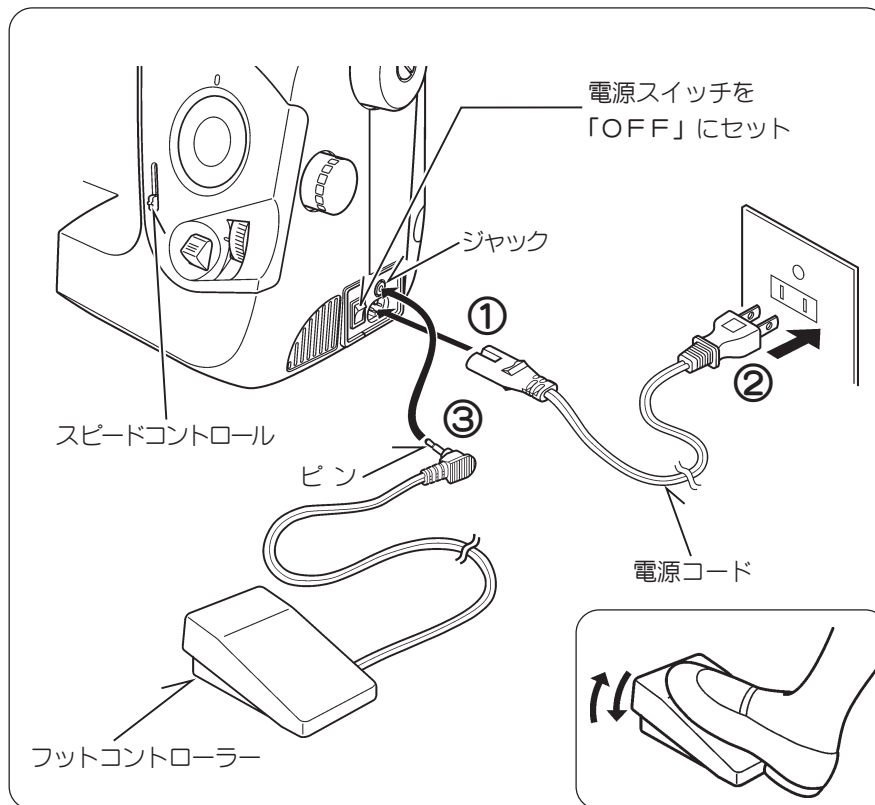
フットコントローラーのピン③をマシンのジャックにさしこみます。

● スタート

フットコントローラーを深く踏むとマシンの回転は速くなります。最初は軽く踏んでゆるい速度で縫い始めてください。

フットコントローラーを接続中は、スタートスイッチを押してもマシンは動きません。

- ⑧ フットコントローラーを使用する場合、スピードコントロールの設定位置が、フットコントローラーの最高速度になります。



保証とアフターサービス（必ずお読みください）

アフターサービス等について、おわかりにならないときは、お買上げの販売店か下記のご相談窓口にお問合わせください。

① 保証書 （本体同梱）	保証書は、必ず「お買上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受取っていただき、内容をよくお読みの後大切に保管してください。 「保証期間 — お買上げ日から1年間です。」	
② 修理を依頼 されるとき	この取扱説明書をよくお読みのうえ、「ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう」(P.30-31)の点検をしていただき、それでも故障と思われる場合には運転を停止し、ご自分で修理なさらないでお買い求めの販売店にご相談ください。	
	保 証 中	保証書の規定に従ってお買上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、保証書をご用意のうえ、お買上げの販売店にご連絡ください。 お買上げの販売店にご依頼にならない場合には、下記のご相談窓口にご連絡ください。
	保証期間 経過後	お買上げの販売店にご依頼ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。 販売店にご依頼にならない場合には、下記のご相談窓口にご連絡ください。
③ 補修用性能部品の 保有期間	ミシンの補修用性能部品（機能維持のために必要な部品）の保有期間は製造打ち切り後6年です。	

ご相談窓口専用フリーダイヤル 0120-001137
 つながらない場合は 電話 06-6900-1963
 又は FAX 06-6902-0433

5

6

販売元: 株式会社 日立リビングサプライ

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29

アクロポリス東京

TEL: 03-3260-9611 FAX: 03-3260-9739

製造元: ジャガー株式会社

〒570-0011 大阪府守口市金田町 2 丁目 55 番 32 号

ご相談窓口専用フリーダイヤル 0120-001137

つながらない場合は 電話 06-6900-1963

又は FAX 06-6902-0433